

3. 基本的な方針

3-1 まちづくりの方針（ターゲット）

上位計画である第7期菊陽町総合計画では『ともに 輝き 成長しつづけるまち 菊陽』を将来像として掲げています。また、菊陽町都市計画マスタープランにおいては、都市づくりの理念として『成長と調和が共存し 未来へつなぐ共創都市 菊陽』が掲げられています。

これらの上位計画等における将来像や理念、目標、方針等を踏まえ、「2. 都市が抱える課題の分析及び解決すべき課題の抽出」において抽出した課題について、居住と都市機能の適正な立地の観点から解決するためのまちづくりの方針（ターゲット）を以下のとおり設定します。

多様な生活スタイルや暮らしのニーズをかなえる 安全なまちづくり

- ・ 便利で都市的な生活が実現する鉄道駅周辺のまちなかだけでなく、自然環境と調和したゆとりある生活が可能な郊外部が共存する、町民それぞれのライフスタイルや希望に沿った暮らしを選択できるまちを目指します。
- ・ 多様な都市機能が集積した鉄道駅周辺と行政機能が集積した菊陽町役場を中心に、町内の各地域が公共交通ネットワークで結ばれた、自家用車を持たない町民でも移動しやすい、生活しやすいまちを目指します。
- ・ 自然災害による影響が少ない場所や防災・減災対策が講じられた場所に居住地を形成し、安全なまちを目指します。

3-2 目指すべき都市の骨格構造

まちづくりの方針や「菊陽町都市計画マスタープラン」の将来都市構造を踏まえ、都市の骨格構造として、核となる「拠点」や「軸（公共交通）」の考え方を以下のとおり設定します。

3-2-1 拠点の考え方

行政、商業、医療、金融等の都市機能を担う施設の立地、集積により、生活サービスを提供する拠点として、「中心拠点」と「地域拠点」を設定します。

また、コミュニティを支える拠点を「生活拠点」として設定します。

表 3-1 拠点の役割と位置付け

拠点	役割	位置づけ
中核拠点	<ul style="list-style-type: none">・ 町の中心部である鉄道駅周辺に暮らす町民が、日常生活において必要とする商業、医療、金融、福祉、子育て支援等の生活サービスを提供する拠点としての役割を担います。・ 鉄道、バス等の公共交通利便性が高い場所であり、人が集まるにぎわいと交流の拠点としての役割を担います。	JR 光の森駅 JR 三里木駅 JR 新駅 JR 原水駅周辺
地域拠点	<ul style="list-style-type: none">・ 行政サービスの基幹的施設が集積する町の中枢としての役割を担います。	菊陽町役場周辺
生活拠点	<ul style="list-style-type: none">・ 町内の各地域に生活する町民が形成するコミュニティ等を支える施設の維持を図るとともに、町民の日常生活を支える身近な都市機能である商業施設を誘導することで、地域生活における拠点としての役割を担います。	西部町民センター 光の森町民センター 南部町民センター 東部町民センター ふれあいの森研修センター

3-2-2 基幹的交通軸の考え方

熊本市等の周辺都市との連携を図る基幹的な公共交通機関である JR 豊肥本線と、拠点間を連絡する路線バスを基幹的交通軸として設定します。

基幹的交通軸に加え、地域の日常生活を支える移動手段としての役割を担う巡回バスや、町内の産業を支えるセミコン通勤バスについても維持、強化を図ります。

3-2-3 目指すべき都市の骨格構造

拠点及び基幹的公共交通軸の考え方を踏まえた目指すべき都市の骨格構造を以下に示します。

まちづくりの方針（ターゲット）の実現に向けて、鉄道駅周辺の「中核拠点」、菊陽町役場周辺の「地域拠点」及び各地域における生活の中心となる「生活拠点」の維持を図るとともに、基幹的交通軸等により各拠点を連絡し、連携を促進します。

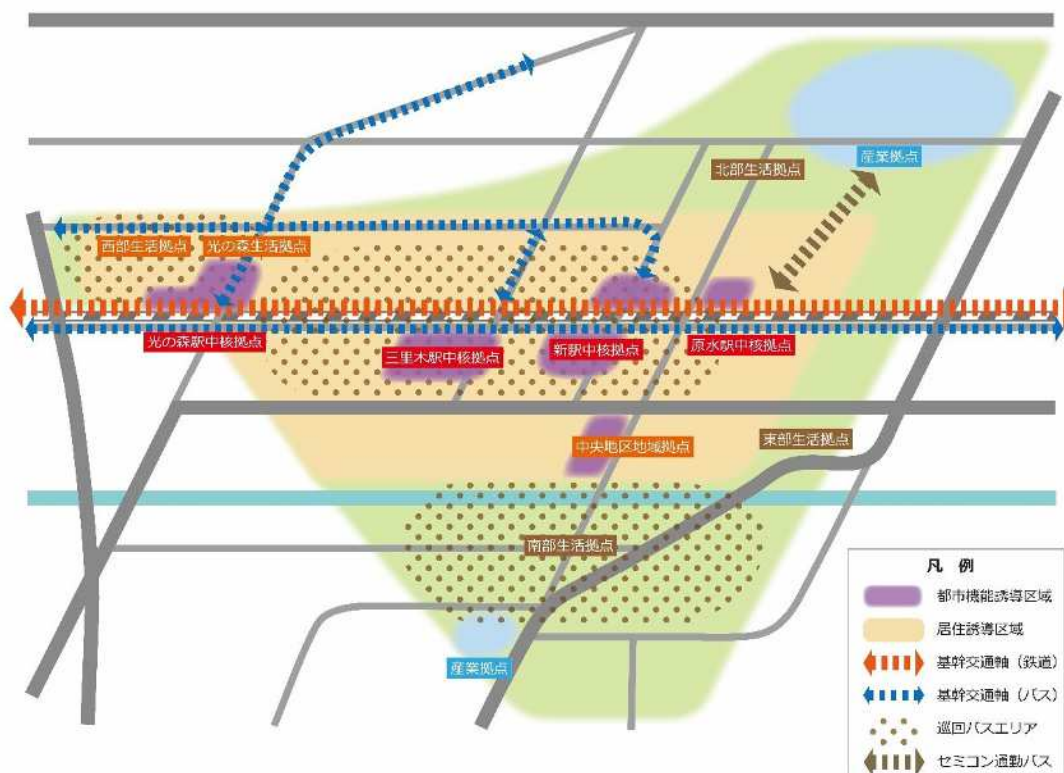


図 3-1 目指すべき都市の骨格構造

3-3 課題解決のための施策・誘導方針（ストーリー）

課題を解決し、まちづくりの方針（ターゲット）の実現に向けて、施策及び誘導を進めていくための方針について検討しました。

